

# 一般の教育が疾病に及ぼす影響

醫學士 石 塚 保 吉

## 一、迷信について

東京には非常に迷信が多いといふ事は争はれない事實です。相當に教育があつて、此人にしてと思ふやうなのが、或は方角がわるいとか、水天宮様のお札をのむとか或はなめくちを鹽でもんで食べるとか、随分奇抜な事を實行して居るのがあります。かういふ迷信に捕はれても害がなければ別に差支ないやうなものです。それが爲めに大切の病人を死地に陥れるやうな事になると黙つて居られない仕義になります。その外風説に惱まされるのも少くないやうです。素人の説を直に信仰してかゝるのです。水治法がよいと云へば一も二もなくそれに賛成してしまつて、おぢいさんでも、

おばあさんでも、大人も子供も凡べて水治法をやる、紅療法可なりと云へは忽ちそこに蝟集する、曹鹽療法効果ありと稱へられると百病をそこへもち込むといふ事が行はれて居るのです。そんな事をして子供の最注意すべき食物を過つて遂に死に至らしむるなどの實例をしばしば目撃させられるのです。つまり人のいふ事に迷はされるのです。風説の迷信とでもいふのでせう。それで眞違ひがなければよいが、眞違つた事實を澤山見せられるから、迷信に捕へられるといふ事はお氣の毒な事と思ひます。

## 二、醫者に就ての知識

東京の人は非常に澤山の醫者を自分の近處にお

いておかれる便宜があります。一里四方に一人位の醫者をもつて居る地方に比べると、よほど幸福であります。しかし一得あれば一失で、同時に東京の人はそれが爲めに或は不幸を醸して居るやうな事がありはしないかと思ふ。需用供給の理でどうも醫者が粗末にせられるやうである。撰り取り御随意であるからまづ撰擇に迷ふのです。其結果かたつばしから醫者をかへてあるくといふのがある朝晝晩と三度に三ヶ所をあるいてくるやうなのがある。しかも可なり教育もありさうな立派な人が青山中の醫者は皆試験して來たなどと大得意で居られるのがある。しかもさうやつて居る中に、取りかへしのつかない不幸が起つて來る。轉々して居る間始終治療の方針がかはつて、病人がつまりおもちやになるやうな結果になります。殊に子供などは藥の影響を受けやすく、最初の一步で運命が定められる位のものであるから、方々検査してあるくのは眞に危険な事になります。

先達て私の宅へ診察を受けにきた一人の患者は其後二ヶ月ばかりかゝつて東京中を巡回してゐたのださうです。人がよいといふまゝにどこもかしこも遍歴して遂に瀕死の状態になつて再び私の處へもどつて來ました。再三再四斷つたがきかないで今入院中ですが、さういふ人は醫者の方から考へてあまりうれいものでない。漂浪療法はもうやめにして今度は落ちつくといふのだから、まあいゝのですが、次から次へと移轉してあるくといふのは、まあ醫者は弄ばれて居るやうな感じがする、弄ばれるといふ事がわかつて居て、全力をそゝぐといふ事はなかくむづかしい事です。それを患者の方で平氣ですまして、却つて得意で居るやうなのは、どうあらうかと思はれます。

### 三、醫者の撰擇

醫者は東京に數へ切れぬほど澤山にあつて、名と看板を出して居るのがあるから、其中から一番

よいのを撰り取りする事はわるい事ではない、最  
大切な事です。それで病氣になつてから、あれかこ  
れかと方々さまようてあるくやうな事なく、平生  
からよく研究して信頼すべき一人の醫者を定めて  
おくがよろしい。一旦其人と定めた以上は、いろ  
くとかへて見たりしないので、全體の責任を其人  
に負はせるやうにするが最よいのです。横着に試  
験的にやつて來る人は、今日はこちらで、明日は  
あちらといふ鹽梅であるから、自然醫者のもつ責  
任は輕くなるわけであるが、全責任を負はせられ  
た時は一番苦しいのです。どんな事をしてもなほ  
さうとします、自分にわからない事は他の専門家  
にきくとか、あくまで其責任を全うしやうとする  
職業の一部を犠牲にしても其人の爲めにはたらか  
うと云ふ氣になるものです。さうすると治療の方  
針も一定して居て、萬一少し位間違ひもあつても、  
まるでわからない初診の醫者のやるやうな眞違ひ  
は起らないわけです。

#### 四、専門について

撰擇については、専門といふ事に重きをおかな  
ければなりません。たとへば小兒科専門達は小兒  
の病氣ばかり研究して居ます。その小兒科醫が子  
供の患者を扱つて居る場合に見當ちがひの内科醫  
或は外科醫、甚だしきは軍醫などを立ちあひに呼  
ぶなどは常識のある沙汰とは云はれません。或る  
病院で院長は外科専門で、副院長が内科専門でや  
つて居ると、内科の患者が是非一度院長さんに診  
ていたゞきたいと歎願したといふやうな話もある  
が、これらもわからん屋のたぐひに入れられなけ  
ればなりません。醫學の研究は非常に緻密になつ  
て、専門くゝにわかれて居るのであるから、此の  
區別を明に知つて醫者の撰擇をする必要があります。  
どれもこれも同じものゝやうに考へて居ては  
過つて不幸の種を蒔くやうな事になります。

## 五、子供自身の教育の

### 治療に及ぼす影響

以上は兩親の心得であります。子供自身の教育が治療に及ぼす影響も甚だ少くありません。常に家庭でよく教育せられて、親の言ふ事をすなほにきいて物のわがりのよい子は、治療の効果が非常に良好です。殊に腸胃の病氣などになると、子供の教育の如何は治療上に大關係をもちます。減食療法や饑餓療法などを行ふ場合にすなほに育てられて居る子供は、立派に其効を奏する事が出来るが、きかない子になるとおもゆはのまない、ソツプはきらひ、吸入はいやくで手がつけれない。三日三晩何も食べない、やむを得ずパンを食べて危険に陥ると云ふやうな事になる。ふだん氣をつけて、相當に兩親のいふ事をきくやうに育て、おかないと非常に困る事が出来て來ます。

## 六、兩親の服従

親の方で醫者のいふ事を守るのと、守らぬのとがあつて、それが子供の病氣治療の上に少からぬ影響を及ぼすやうである。醫者のいふ通りにやつて居るやうな顔をして居て内處で物をやるとか、醫者には隠していろんな事をやつて見るとか云ふやうな事をする人に限つて治療が困難になります。主治醫には絶體に服従するといふ事にしないと病氣はなほりにくいやうです。

## 七、信仰のある人は

### 成績がよい

高田病院できいて見ると、宗教を信じて居る人はとかく成績がよいといふ事です。終極の安心がついて居て運を天に任せて、とにかく出来るだけの事はやつて見ると云ふのと、いたづらに煩悶苦惱するのと其間の違ひは甚だ少くないさうであり

ます。心を安靜にもつといふ事は、病氣治療の上によほど大切な事であります。

醫者の種類も平生真面目に研究しておいて、一旦其人と定めたならば、安心してその人に絶體の信任をおくのがよいやうです。醫者の方から云つ

## 少年俳人

我と來て遊べや親のない雀

は大俳人一茶が六歳の彌太郎の時の吟咏である。

一茶の句に就いては先年倉橋氏が本誌に精しく述べられた通りである。

兒童の藝術と云ふ問題は素より其範圍が甚だ廣い。今は俳句にこの問題を限つて、一切學問上の詮義立は抜きにして我邦の少年俳人の面白い作を少しばかり紹介して見たいと思ふ。

犬と猿世の中よかれ酉の年

ても、全然信任せられて、生死ともに任せるといはれた時は最苦しい。如何なるものを犠牲に供してもなほさなくてはならぬと思ひます。そして、多くは其方が成績がよいやうです。

若き父

は芭蕉が十四歳の時の作である。

井の端の櫻あぶなし酒の酔

は誰知らぬ人のない十三歳の時の秋色女の吟であり。

雪の朝二の字／＼の下駄の跡

が捨世六歳の時の作である事を思へば詩才遙かに秋色を凌いだ事が明かである。

發句して笑はれにける今日の月

は蕉門の丈草が九歳の句である。